

会議録

会議の名称	令和2年度 清須市行政改革推進委員会（第1回）
開催日時	令和2年7月29日（水）午後2時～午後3時40分
開催場所	清須市役所 南館3階 大会議室
議題	1 開会 2 あいさつ 3 議事 令和2年度 行政評価（令和元年度対象）に係る外部評価について 4 閉会
会議資料	会議次第、委員名簿、配席図 （会議資料） 資料1 令和2年度 行政評価（令和元年度対象）に係る外部評価について 資料2 令和2年度 行政改革推進委員会のスケジュール 資料3 令和2年度 行政評価結果（令和元年度対象） 外部評価対象分 参考資料1 市民満足度調査結果と外部評価対象施策 参考資料2 市民満足度調査における施策の満足度・重要度・主な回答理由 外部評価対象分
公開・非公開の別 （非公開の場合はその理由）	公開
傍聴人の数	0人
出席委員	野田委員(会長)、齊藤委員、福井委員、綱島委員、川口委員、山田委員、高山委員、福田委員、中田委員
欠席委員	なし
出席者（市）	葛谷副市長、宮崎企画部長
事務局	（企画部企画政策課（企画政策係）） 後藤次長兼課長、服部課長補佐兼係長、河村副主幹、西田主任、服部主任
説明者	島津生活環境課長、所生活環境課長補佐、青山生活環境課係長、菅野上下水道課長、辻生涯学習課長
会議録署名委員	山田委員、高山委員

1 開会

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

定刻となりましたので、ただ今から、令和2年度 第1回清須市行政改革推進委員会を開催します。

皆様には大変お忙しい中、ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。私は企画政策課長の後藤でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、開会に先立ちまして、本日の会議についてのご報告とお願いをさせていただきます。

まず、この会議は、清須市附属機関等の会議の公開に関する要綱第3条の規定により、公開会議となっておりますので、よろしくお願いいたします。また、今回の会議につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、マイクを使用しないということで進めさせていただきますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。なお、お声の通りが悪いとおっしゃられる場合は、マイクをお持ちしますので、お申し付けいただければと思います。

それでは、委員会の開催にあたりまして、葛谷副市長からあいさつを申し上げます。

2 あいさつ

(葛谷副市長)

改めまして皆様、こんにちは。副市長の葛谷でございます。

委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、令和2年度の第1回行政改革推進委員会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

今年に入ってから、新型コロナウイルス感染症一色のご時世かと思いきや、ここにきて豪雨災害も色々と取り上げられておりまして、全国各地で災害が起こっていますけれども、どちらも清須市にとっては切実なところがございます。

まず、新型コロナウイルスの関係では、最近、清須市で感染者が連日報告されております。報道機関の関係で1名の誤差がありますが、私どもは25名と認識しております。先ほど委員のどなたかもおっしゃっていましたが、人口比率でいくと、清須市は非常に感染率が高いというところも見受けられます。

世界的に見ても、感染者は現在1,636万人を超えておりますし、亡くなられた方も65万人以上いるということでございます。しかも、5月末の時点では、亡くなられた方は30万人と聞いていましたが、2か月弱で既に2倍以上に増えているということで、この時期にこのような増え方をしていると、秋口のインフルエンザが流行る頃になって更に拡大したら困るなど懸念しているところでございます。

そうした中で、職員も本当に臨機応変に対応してくれていまして、特別定額給付金の交付事業をはじめ、各種支援事業を展開して取り組んでおりますが、職員は一生懸命頑張っておりますので、皆様方も、もしよろしければ、職員にお声掛けしていただくと助かるなど思っております。

さて、本題に戻りますけれども、委員の皆様は熱心にご審議いただきまして、昨年度末に策定しました「清須市行財政改革推進プラン」は、第2次総合計画を支える行財政基盤の構築に向けた重要なプランであると認識しておりますが、本日の委員会では、このプランでも定められております、行政評価の外部評価といたしまして、令和元年度の市の取組に係る行政評価の結果をお示しさせていただきました。この結果を活用することにより、今後の事業の見直しや改善につなげてまいりたいと考えておりますので、委員の皆様には、評価の妥当性や客観性を確保することを主眼といたしまして、忌憚のないご意見を頂戴できればと思っております。

3密など色々言われておりますが、本日の委員会はスムーズに進行させていただきますので、よろしくお願いいたします。簡単ではございますが、あいさつとさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

3 議事 令和2年度 行政評価（令和元年度対象）に係る外部評価について

（後藤企画部次長兼企画政策課長）

ありがとうございました。

それでは、これより議事に入りたいと思います。議事の進行につきましては、野田会長にお願いいたします。

（野田会長）

皆様、こんにちは。

本来であれば、マイクなしでも良いのかもしれませんが、きちんと声が通るようにということで、私はマイクを使わせていただきます。

本日は、令和2年度の第1回委員会でございます。はじめに、会議録の署名委員の指名をさせていただきたいと思いますが、昨年度の3月の委員会では、綱島委員と川口委員にご署名をいただきましたので、名簿の順に、山田委員と高山委員にお願いをしたいと思います。よろしくお願いいたします。

さて、今年度の委員会では、昨年度に策定した「行財政改革推進プラン」に基づく市の行財政改革の取組がどうなっているのかを確認することと、2つ目の目的として、特に、行政評価を活用した事務事業の見直し・改善についてご審議いただくことを予定しています。

そして本日は、後者の行政評価に係る外部評価について、ご審議をいただきたいと思います。昨年度、市が取り組んだ施策・事務事業について、担当課による自己評価の結果をまとめております。それに加えて、この行政改革推進委員会において、委員の皆様は外部の視点からの評価をいただくという趣旨で行います。

行政評価を活用した事務事業の見直し・改善は、第2次総合計画やプランに位置付けられた取組であり、この委員会での議論が外部評価となるため、この議論自体が、行政改革の取組の1つになっているということになりますので、ぜひ活発なご議論を

お願いしたいと思います。

それでは議事を進めてまいります。まずは、清須市における行政評価の基本的な考え方といった、これまでの委員会のおさらいや、外部評価として、委員の皆様からどのようなご意見をいただきたいかということについて、事務局から説明をお願いします。

(服部企画政策課主任)

企画政策課の服部と申します。私から資料の説明をさせていただきます。よろしくお願いたします。

座って失礼いたします。

資料1 令和2年度 行政評価（令和元年度対象）に係る外部評価について

資料2 令和2年度 行政改革推進委員会のスケジュール
について説明。

(野田会長)

ありがとうございました。

ただ今、事務局から外部評価の概要と今年度のスケジュールについて、ご説明をいただきました。この後、資料3の内容について、皆様にご審議いただきますけれども、それに先立って、こういう観点から見てくださいね、ということをお示ししたものが資料1ですね。それから、資料2はスケジュールとなっています。

あらかじめ資料1と資料2をご提示いただきましたが、この2つの内容について、ご意見等ございますでしょうか。

「異議なし」の声

よろしいでしょうか。

この後、皆様には、各施策について市の方で自己評価をしてもらっているものを、外部評価という形で、第三者の目から客観性を持って見ていただきます。

そうしましたら、資料1と資料2についてはご了承いただいたということで、資料3について事務局からご説明をお願いします。

(服部企画政策課主任)

資料3 令和2年度 行政評価結果（令和元年度対象） 外部評価対象分
のうち「施策701 市民参加・市民協働の推進」
について説明。

(野田会長)

ありがとうございました。

ここからは自由にご意見をいただければと思います。4つの施策について、質疑応答の時間は大体13分ずつくらいとなっていますが、最初が割と効率的に進みましたので、15分くらいは取れるかなと思っています。

ちなみに、本日いただいた全てのご意見に対応出来るということにはならないかもしれませんが、出来る限り踏まえていきたいという姿勢でございます。

そうしましたら、ご意見等ございますでしょうか。どんな観点でも結構です。

福田委員、お願いします。

(福田委員)

ご質問でもよろしいでしょうか。

(野田会長)

もちろん結構です。

(福田委員)

施策の関連データのところに、平成27年度からの「アダプト・プログラム参加団体数」が書いてありますが、アダプト・プログラムだけをここにお示しされているのは、なぜでしょうか。他にも、市民団体は色々あるのではないかなと思ったものですから、ちょっとお尋ねしようと思いました。

(野田会長)

事務局、どうでしょうか。

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

福田委員がおっしゃっているのは、他にも色々な活動をしている団体があるよということだと思いますが、例えば、花いっぱい運動などもありますけれども、アダプト・プログラムについては、1つの事業に関してこれだけの団体が参加しているという、市民協働に近い形で指標が取れる事業としては、今のところアダプト・プログラムしかないのかなということで、今回、指標として取らせてもらったということをご理解いただければと思います。

他にもたくさん事業があることは承知しておりますが、どの事業で指標を取るかということになると、中々難しいところがありまして、市民協働については、指標が取れそうな事業がアダプト・プログラムかなというところで、取らせてもらったということでございます。

(野田会長)

アダプト・プログラムは、全国的にどこでもやっているような事業ですので、指標が取りやすいということではありますけれども、清須市も独自に色々なことをやり始めているので、他にも取れそうな指標がないかということは、随時ご検討いただくということをお願いしたいと思います。

他にどうでしょうか。

高山委員、お願いします。

(高山委員)

今の話に関連しますが、私も、広報紙で市民協働の記事を見ていましたけれども、アダプト・プログラム関係の団体さんの紹介がほとんどで、アダプト・プログラムしかやっていないのかなという感じを受けてしまいました。

平成30年4月から市民協働係が設置されたということですが、企画運営ミーティングというものは、既に何回か開催されていて、「こんなこともやっていこう。」という話は、具体的に出ているのでしょうか。

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

まず、昨年度の活動の話を申し上げますと、市民協働テラスというものをスタートさせていただきまして、旧町単位で実施した方が集まりやすいのではないかとということで、4地区でそれぞれ開催させていただいたところ、人の集まりというか、横のつながりが中々とれなかったのが、後期については、ファシリテーターさんを招へいした上で、1か所で開催をさせていただきました。

そして、市民協働テラスの参加者の中から、企画運営ミーティングに参加していただける方を募って、3月に開催を予定していたところ、新型コロナウイルスの影響により実施することが出来なかったため、今のところ、企画運営ミーティングについては、一度も開催出来ていないという状況であります。改めて企画運営ミーティングを開催しようと思うと、もう一度、市民協働テラスを開催して、参加者を募らなければならないかなということ、市民協働係と検討しているところです。

昨年度2月に市民協働テラスを開催して、3月に企画運営ミーティングを予定していましたが、新型コロナウイルスの関係で出来なかったというところで、令和元年度事業は終わってしまいました。令和2年度に入ってから、市民協働の活動は皆無に等しいです。実際、アダプト・プログラムについても、今は何も出来ていません。独自で活動していただいている団体はありますが、上半期の苗のお配りは止めさせていただきましたので、今年度の市民協働の活動は、この7月末時点で全く出来ていない状況であります。

この後、新型コロナウイルスが落ち着くか分からないですけれども、市民協働係としては、もう一度、市民協働テラスを開催した上で、企画運営ミーティングの参加者

を募りたいということで計画を立てているところではありますので、今のご質問の回答としては、今のところ、企画運営ミーティングは一度も開催出来ていないということでございます。以上です。

(野田会長)

他にどうでしょうか。

福井委員、お願いします。

(福井委員)

次の施策にも同じようなことが言えるのかなと思うのですが、今後の方向性については、新型コロナウイルスの件を置いては考えられないのかなということで、今までのように、交流するとか一堂に会して何かをやることは、これからは出来ないのか、やり方を変えていかなければならないのかということを考えて時に、例えば、オンラインを活用するといったことは、段々一般化しているような気がしますので、そのあたりも含めて、先ほど言ったような、今までのやり方とちょっと変えるみたいな、よく言われている新しい生活様式とか、ニューノーマルといった観点なども今後の方向性に取り入れて考えていくと良いのかなと思いました。代替案は持っていないのですが、意見として言わせていただきます。

(野田会長)

ありがとうございます。

ちなみに、現段階で、そういう方向で進めようということは何かございますか。

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

アダプト・プログラムに関しては、特に代替案は持っていません。ただ、市民協働の在り方については、福井委員がおっしゃるように、今まで考えてきたことと少し違うニュアンスの考え方が必要になると思っています。

昨日、市内部で開かれた新型コロナウイルス対策会議の中でも、副市長からのお話がありましたが、今まで事業を中止してきたことは、やむを得ないのだけれども、例えば、次年度以降、同じ考え方ではいけないだろうということをご提案をいただいております。

(野田会長)

そういうことではなくて、オンラインで行っていくということについて、例えば、大学では個別相談をオンラインでやっていますし、他の市役所でもオンラインで色々なことをやり始めていて、インタビューなども今は全部オンラインになりつつありますので、現段階でもし何か検討されていることがあればお答えをいただいて、特にな

ということであれば、今後ご検討いただくことになると思いますが、いかがでしょうか。

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

市民協働に参加される方は高齢者が多いので、オンラインについては、そのあたりをどうクリアしていくかという課題があると思います。ただ、この先、オンラインを全く考えないということは駄目だろうとも思っていますので、今のところは、検討していくという回答をさせていただきたいと思います。

(野田会長)

今は、高齢者の方もスマートフォンを持ったり、パソコンを使ったりしていますし、諸外国もやっていますので、それほどデジタルデバインドがないということ踏まえて検討していただきたいと思います。

他にどうでしょうか。

中田委員、お願いします。

(中田委員)

先ほど、昨年度3月に企画運営ミーティングを予定していたと言われましたが、もし開催出来ていたら、人は集まりそうでしたか。

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

既に手を挙げていただいていた方はいらっしゃいました。

(中田委員)

私も、4地区で開催した時には参加しませんでした。後期の市全体の時に参加したところ、参加者はみんなどこかでお会いしたことのあるような知り合いばかりで、これが市民参加なのかなと、ちょっと疑問に感じました。全然知らない市民が集まって意見を述べ合うのであれば、やる意味があるけれども、知り合いばかりで「あなたもまた来たの。」という感じが多かったので、これは面白くないなと感じましたが、どのようにお考えでしょうか。

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

中田委員がおっしゃるように、顔見知りの方が多く参加されていたことは否めないと思いますが、一歩目はそこからスタートせざるを得ないのかなという考えを持っています。最終的に全市に広がっていくことが、我々の願いであるというところをご理解いただければと思います。

(野田会長)

福田委員、お願いします。

(福田委員)

私は、前期と後期の両方に出席させていただいたのですが、意見や要望、自分たちはこんな活動をしていますよという紹介などを、その場でただ発表するだけで、言いっぱなしになっていたのも、この団体とあの団体が同じようなことをやっているだとか、あの団体が困っていることは自分たちが何とか出来ないだろうかといった、つながりが広がるようなコーディネートの後日にでもしていただけると、もっとみんなが集まることが出来るし、こうした方が良いのではないかという意見や考え方も出てくると思いました。今は、コーディネートをするとところがないものですから、後で、あのグループは何をやっていたのだろうというようなことになってしまっていると思うので、上手くコーディネートしていただく方法があると良いなと思いました。以上です。

(野田会長)

ありがとうございました。

ちなみに、中田委員と福田委員にお伺いしますが、評価の内容について、達成度指標の達成状況の分析など、このあたりは自己評価ではありますが、客観的に書かれているという認識でよろしいでしょうか。

(福田委員)

広報などで枠を設けてみんなに周知するという事について、方法としては分かりますが、広報を読んで、本当に市民1人ひとりのモノになっているのでしょうか。こういうことをやっているのかというだけで、私も一度やってみようかとか、どこに声を掛けたら良いのだろうかという気持ちになるのかなと思っています。

(野田会長)

中田委員、どうでしょうか。

(中田委員)

評価については、大体当たっていると言ったら失礼ですけども、正解だと思います。ただ、市民協働テラスでは、ファシリテーターの方を雇って、みんなをコーディネートしていただきましたが、そのコーディネートをして下さった方も、結論とかそういうことは有耶無耶で、今日の市民協働テラスは何だったのだろう、自分にプラスになることも何もなくて、こんなの私たちがいつもやっていることと同じじゃないかと思いましたが、次に何か呼ばれても、もう行かないぞという気持ちにさせられて、がっかりして帰ってきました。申し訳ないですけども、これが本音です。評価は、合っ

ていると思います。

(野田会長)

ありがとうございます。

評価自体は、自分たちの良いように書いている訳ではなく、非常に客観性のある形で書いていただいているということですね。ただ、今後の方向性に関する話について、別に間違っている訳ではないのですが、次に同じようにやったとしても、細部のところで効果が表れない可能性があるということです。今回は開催出来なかったということではありますが、企画運営ミーティングそのものは、行政職員以外の方々も入って、企画段階から参画をしていくということなので、今後、開催された時には、今お伝えいただいたような意見を言っていただければと思います。

また、ファシリテーターの課題などもあります。そこはご意見として受けておいていただきたいと思います。すごく良いファシリテーターもいますけれども、これなら行政職員が直接やった方が良かったなということもよくありますので、ご検討いただければと思います。

他にどうでしょうか。

齊藤委員、お願いします。

(齊藤委員)

この施策だけでなく他も同様ですけれども、最後の施策の評価と今後の方向性を見ると、ちゃんと評価出来ていないのではないかなという感じを受けます。取組を行ったことによって、何がどう変わったかというところが抜けているのではないのでしょうか。所管課は知っているから、ここに書かなくても共有しているのかもしれませんが、やはりこれは評価シートなので、書いてもらわないとちょっと分かりにくいなというところがあります。このシートを見ても、現状や実施しましたということの報告にしかなくて、プログラムやイベント事をやることに必死で、やったことで施策の目指す姿に近づいたかどうかというところの評価が感じられません。事務事業評価にある事業の有効性の評価で少し書いてありますけれども、イベント事を実施したということではなく、やったことで、施策の目指す姿にどのように近づいたのかとか、何かが高まったとか、もう少し足りないと感じたというところを書いていただきたいです。このシート自体、自己評価を基本としているということですが、達成度指標になっている市民満足度調査の結果などを基に、事業がどうだったかという評価がされていないと思います。

(野田会長)

各担当課の方が、丸や三角といった記号で示した目標値の達成状況を踏まえて達成状況の分析を行ったものが、それぞれの指標を勘案した自己評価です。

(齊藤委員)

この記号は、目標値を達成しているか、していないかを単に数字だけで判断していると思いますので、この結果を受けて、施策の目指す姿に近づいているのかということ、所管課がきちんと判断していないといけないと思います。

(野田会長)

他の指標が必要だということでしょうか。

(齊藤委員)

そうではなく、指標や実際にやってきたことを基に、所管課が事業の評価をすることが行政評価だと思っていますが、その評価が見受けられないのです。記号は、目標値を達成出来たかどうかを見るだけで、それだと達成出来なかった時に、全然出来ていないと捉えられると思うのですよね。目標値だけを見て、達成出来た、出来なかったとするのではなく、やったことで少しでも改善出来た部分があったというところを書くことが、自己評価につながると思いますし、これでは現状をどのように受け止めているのかというところが分からないと感じます。それが出来ていないから、事業の中身にも上手く反映が出来ず、中田委員や福田委員が言われたように、イベント事やっても、よく分からないことになってしまうのではないかと思います。

(野田会長)

今回の施策 701 のように、施策を1つの事業だけで判断するというのであれば、施策と事業は一致しますが、通常は事業がいくつかあって、事業の効果が施策に影響し得るであろうということではあるものの、どう影響するかということまでは分からないのです。分からないということ踏まえながら、個々の事業はその上の施策の目的に向けて取り組むものだというので、施策の評価と今後の方向性をまとめています。今現在、きちんと出来ているかを事業別で見ているものが、事務事業評価のところ、アウトプットをしたことが、どのようにアウトカムにつながっているかということ踏まえた評価は、どこの自治体もやっていませんし、そこまで細かくプログラム評価をするのであれば別ですけども、難しいかなと思います。

(高山委員)

今の話に関連するか分からないのですが、教えてください。

事務事業評価について、活動指標①、②ともに目標値の半分以下しか達成出来ていませんが、予算の執行率 96.9%ということは、ファシリテーターなどで予算を使い果たしてしまったということですか。今後の方向性では、市民協働テラスを継続していくとしか書いていないので、書く欄がないのかもしれませんが、そのあたりの事情をもう少し書いていただきたいです。

(野田会長)

目標の半分くらいしか施行出来ていないにも関わらず、予算としては9割以上使っているということですね。どうしてこうなっているのかを記述する場所が必要だということでしょうか。

(高山委員)

そうですね。その上で、最後の今後の方向性につなげていくような記載をすると良いと思います。

(野田会長)

ちなみに、この理由は何かあるのですか。

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

先ほど申し上げましたとおり、当初はファシリテーターを招へいする予定はなかったのですが、一度呼んで協力体制でやってみましょうということで、急遽予算を振り替えて、枠の中で出来る範囲内のことを実施しました。

ファシリテーターの招へいについては、当初予算の中で計上していなかったものから、予算を振り替えた形になっていますので、執行率としては高いですが、事業は実施出来なかったというところがあるかもしれません。

(野田会長)

そのような細かい事情をどこまで書けるかということにもなりますし、もし書くとして、どこに書くことになるかちょっと分からないのですが、書けることがあれば書くということですね。

(高山委員)

そういうことであれば、今年度は予算も活動指標の目標値も違ってくるのかなと思いますし、そうすると、先ほど齊藤委員が言われたような、内容にも触れた記載が必要になってくるのかなと思いました。先ほどは施策の話でしたが、具体的な事業についても言えると思います。

(野田会長)

事務事業評価の中に、そういったことが書けると良いということですね。分かりました。

時間が大分過ぎましたので、次に進みたいと思いますが、最後に川口委員、お願いします。

(川口委員)

川口です。今日はよろしくお願ひします。

私は、市民協働の企画には全く参加したことがないので、今お聞きしていると、町内のいつものおじさま方が顔を合わせる寄り合いのようなイメージがあるのですが、評価の仕方としては、ある程度同じ形で全部の施策を評価するので難しいかもしれませんが、例えば、市民協働テラスに関しては、新しく参加された方はどのくらいだったとか、参加者の年齢はどうだったという情報を吸い上げて、新しく参加された方が少ない場合は、次回はどういう形で行いましょうかとか、それが実行出来たかどうかという評価を新たに加える形にするなど、より良い活動や取組が出来るような評価を付け加えて、今後進められると良いのではないかなと思います。

(野田会長)

そういう意味からすると、開催回数よりも参加者数などを活動指標にした方が良いということでしょうか。

(川口委員)

先ほどのお話じゃないですけども、このシートだけ見てしまうと、開催することに意義を持たせていて、そこに比重を置いているように感じます。何回開催するとか、何名参加したということだけの評価になりがちだと思いますので、新しい評価を加えると良いのではないかなと思います。

(野田会長)

参加者数などは取れますか。

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

市民協働テラスに関しては、取れると思います。

(野田会長)

これから取り始めるということにはなりますが、追加についてご検討いただければと思います。

そうしましたら、施策 605 について、事務局から端的にご説明をお願いします。

(服部企画政策課主任)

資料 3 令和 2 年度 行政評価結果 (令和元年度対象) 外部評価対象分のうち「施策 605 国際交流の振興」について説明。

(野田会長)

こちらについても、自由にご意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。
高山委員、お願いします。

(高山委員)

ここはあまり意見が出ないかなと思いますので、手を挙げました。

事務事業評価の「国際交流協会補助金」で、活動指標②「国際交流協会が主催する講座等の事業数」とありますけれども、達成度指標である「市や市国際交流協会が実施する国際交流に関する講座・イベント等を知っている市民の割合」を増加させるという意味では指標と言えるのかもしれませんが、協会が主催していることを指標として良いものなののでしょうか。事業がどのくらいの規模なのか分かりませんが、そのあたりをご説明いただきたいと思います。

(野田会長)

正直、これ以外では中々ないのかなというところですが、事業規模もそれほど大きくないと思われしますので、何か他に考えられそうなことはありますか。

(辻生涯学習課長)

生涯学習課の辻と申します。よろしく申し上げます。

事業数以外の指標ということになりますと、例えば、各事業の参加者数などであれば、数を取ることは可能だと思っております。

(野田会長)

それは、過去からストック出来ている数字というよりは、これから取っていくイメージですかね。

(辻生涯学習課長)

何年前かまでは、今この場では申し上げることが出来ませんが、数年間分であればストック出来ていると思います。

(野田会長)

そちらの方が、より適切に反映していると思います。

他にどうでしょうか。

川口委員、お願いします。

(川口委員)

国際交流ですが、基本的には外国人の方を呼んで、そこに日本人の方が来るという

形が多いのかなと思います。もしくは、ある程度の外国人の方と大多数の日本人の方という感じだと思いますが、おそらく今後は、中国や、アメリカ、フランス、インドネシアの方が大分増えてきますし、外国人の方も清須市民だと思いますので、逆に、外国人の方に対して何かをやっていくという方が、最終的に市民と外国人の方の交流になっていくのではないかなと思います。何をやっているか分からないという不満なども出ていましたが、正直この形では限界があると思います。

シートには、「外国人住民に対する日常生活のサポート体制の充実」と書いてありますが、市として今後やっていくことや、より外国人の方を市の方に向けてというような考え方のことは、何か計画中ですか。

(辻生涯学習課長)

現時点におきましては、市民センターに来ていただいた外国人の方々に対して、国際交流協会の方からやさしい日本語を教えていただく「日本語ひろば」というものを開催しております。月に何回か開催していて、60名くらいを定員としているのですが、定員に達しないまでも、毎回何十人の参加者はいらっしゃる状況です。

委員がおっしゃられるように、今後、外国人の居住者は更に増えていくことが見込まれておりますので、多文化共生という言葉が世の中に知られるようになってきておりますが、今後につきましては、外国人の方の日常生活における困りごとの相談ですとか、外国人の方のお子さんが学校で困っていることはないかといったことの窓口になるような形で、何が出来るかということ、生涯学習課が中心となって検討していく必要があるという認識はしています。

(野田会長)

山田委員、どうでしょうか。

(山田委員)

施策の目指す姿を読めば読むほど、国際交流協会への支援を進めた方が、しっかり出来るような気がしてならないというのが僕の意見です。そうすると、協会にお金だけ出してという話にはなると思うのですが、「国際交流協会の個人会員数」290人以上を活動指標の目標値としていて、これを増やすために市として何かするのかというと、多分しないですね。先ほど、講座の参加者数を出した方が良いよという話もありましたけれども、当然、会員だけが参加している訳ではないと思いますので、参加者で指標を取っていただいた方が良いのではないかと思います。

あと、話が飛んでしまいましたが、「外国人住民に対する日常生活のサポート体制の充実」というところについて、日本語教育をやっていることは、取組の1つとして分かりますけれども、国際交流として言えることは、それくらいしかないのかなと思います。国際交流ではなく、市民サービスや窓口でのサービスとして、そういった点をど

うするかという話になるだろうと思っていて、外国の方たちのために窓口に通訳を付けなければならないなどといったことは、国際交流側の話ではないと思いますので、ここでは、国際交流協会へのよりしっかりした支援と、内容の充実を市から要求するくらいにしていきたいと思います。

(野田会長)

取組の結果など、書かれている記載内容としてはどうですか。活動指標としては、参加者の方がより実態に即していると言えるということはありませんけれども、窓口サービスについては、広い意味ではそうとも言えますが、国際交流ではなく市民サービスの充実になるということですね。

(山田委員)

市民サービスとして取り組んでいくのであれば、分かります。

(野田会長)

何でも達成しましたよという書き方には全くなっていないですし、書かれている内容としては、特に問題はないということでもよろしいですかね。

今おっしゃられたように、国際交流協会にお願いをしている部分も結構ありますので、そこを通じてどういう結果が得られているのかということも、もう少しちゃんと管理していった方が良くもしいかなと思います。

他にどうでしょうか。

中田委員、お願いします。

(中田委員)

今後の方向性のところで、「中学生海外派遣事業を廃止し」とありますが、これは永久に廃止する予定ですか。

(辻生涯学習課長)

昨年度の実施を最後として、令和2年度から中止ということでもございまして、現時点では、この先、再度開催するという考えは持っていません。

(中田委員)

中学3年生の子から、「せっかく中学3年生になって、海外派遣があると思って喜んでいたのに、中止だって。僕行きたかったのに。」という声がありました。ここには、「令和2年度から小学校高学年において外国語教育が教科化されることを踏まえて」と書いてありますが、踏まえているからこそ、実践して使ってみようとかいうことにつなげてほしいなと思います。家族で海外旅行に行く家庭がすごく増えていますが、

家族で行くことと、ホームステイをすることは全く違って、英語が好きになる可能性がすごく含まれているので、ぜひ、また復活してほしいと願っている市民です。お願いします。

(野田会長)

踏まえてというよりは、外国語教育が教科化されることで様々な需要に対応しなければならぬので、その代わりにということですね。

昨年度の委員会で、海外派遣はそれほどニーズがないので廃止しますという話があったような気がしますけれども、これは、特定のお子さんだけという形にもなりますので、今後、検討の余地があるのであれば、お願いしたいということですね。

駆け足で申し訳ないですが、続いて施策 406 について、事務局から説明をお願いします。

(服部企画政策課主任)

資料 3 令和 2 年度 行政評価結果 (令和元年度対象) 外部評価対象分のうち「施策 406 ごみの減量化と資源化の推進」について説明。

(野田会長)

この施策は指標値が多いので、多様な観点があるかと思います。いかがでしょうか。中田委員、お願いします。

(中田委員)

私は、ごみ減量化等推進委員会にも参加しています。年に 3 回くらい活動があって、小学 4 年生に出前講座をしたり、ごみを処分するところの見学に行ったりして、とても有意義な委員会だと思っているのですが、またしても、参加する人がずっと一緒なのです。

私も、この委員会に参加していなかったら、ごみに対する意識はすごく低くて、適当で良いわという気持ちしかなかったと思いますが、参加することによって、水切りをするとごみの量が減って税金を浮かすことが出来るといった、色々なことが少しずつ分かり、「気に留めないといけないのだな。1 人ひとりがごみに対する気持ちをもっと高めて、正確に知ることが、清須市のためになるのだな。」と改めて感じました。

参加する人たちは全くのボランティアでお金も発生しないので、2 年くらいずつで交代するなど、もっと色々な人を会に参加させる方法を市でも見出して、活発に委員会をまとめ、税金を削減する方向に進んでほしいなということ、今年感じました。

というのも、今年、初めて委員会に参加した子ども会の若い男性の方が、「なぜ僕が

ここに呼ばれたのか、全然分かりません。」と saying、代表の方は「若い人の意見が欲しいから来てもらっています。」と答えていましたが、その方は腑に落ちないまま、こんな会議は無駄だと思っているような感じで参加していました。しかし、みんなで色々な思いを語るうちに、次回も参加しようかなというくらい心が変わったので、これは良いことだな、人間何でもかじってみないと分からないのだから、色々な方を誘って、もっと活発な委員会にして欲しいなと思いました。

(野田会長)

どちらかという、最初の施策の市民協働に関する話ですかね。特定の人だけでなく、広く参加を募っていく形で進めていただきたいということだと思います。

ごみに関しては、市役所が1番コントロール出来る部分だと思いますし、データも結構あって、成果も明らかに見えるので、方向性も割と明確に書いていただいている気がします、どうでしょうか。

川口委員、お願いします。

(川口委員)

事務事業評価の「ごみ収集処理費」について、ごみの収集量を目標値の13,303t以下に出来なかったということではありますが、啓発活動を12回以上行うべきところ8回しか行っていないということで、例えば、12回以上行っていれば、活動指標①の目標値を達成出来る予定だったという捉え方で評価をしていいですか。

(青山生活環境課係長)

生活環境課の青山と申します。

活動指標②は、毎月広報等で、ごみの減量化や分別の啓発活動を実施するという話になりますので、実施すればごみが13,303t以下になるということではありませんが、そこを目指すということで、1つの指標として出させていただいているところです。

(川口委員)

私は、ごみ分別アプリというものを全然知らなかったのですが、これは結構広がっているのでしょうか。

(青山生活環境課係長)

ごみ分別アプリは、業者が作ったアプリに各自治体が参入していく形で、清須市の場合ですと、「さんあーる」というアプリを導入し、広報などを通じて、こういうものがありますよということを周知させていただいております。

アプリをスマートフォンにダウンロードして、お住まいの地区を設定していただく

と、例えば、月、木曜日は可燃ごみの収集日ですよといったことをお知らせするアプリでございまして、年々、ダウンロード数、アクセス数ともに増えております。

(川口委員)

先ほど、外国人の方の話が出ていましたが、私が東京に住んでいた時は、外国人の方というのは、基本土足だったり、何でごみの分別をするのという感じだったりすることが多かったのですよね。今後は、増えていく市の外国人の方にも、言語対応をしていくということで書いてありますけれども、市は国際交流協会や団体などに資金提供をして、協力していただいているようなので、そういった方々にも協力を仰いで、ごみの分別の多言語対応も提案していけると、両方が良くなっていくのではないかなと思いますので、進めてください。

(野田会長)

他にどうでしょうか。
綱島委員、お願いします。

(綱島委員)

達成度指標のリサイクル率に関して、達成状況の分析に、民間事業者が常設する資源回収ステーションの増加云々と記載されていることについて、これは、市としてはきちんと取り組んでいただいているのでしょうかけれども、他に捨てるリサイクルステーションが増えていて、結果としては、市として把握するリサイクル率が低下しているということだと思いますので、そのあたりをどのように評価するのか、一度見直すというか、市としてももう少し違った切り口でやっていくのかということを含めて、整理をしていただいたら良いのではないかなと思います。リサイクルの話は、分かりやすい取組の1つだと思いますので、ぜひ整理をしていただければと思います。

(野田会長)

民間事業者による対応で、リサイクル率が相対的に落ち込むという、落ち込んでいる理由を分かりやすく書いてもらった方が、より客観性があるということだと思います。

齊藤委員、お願いします。

(齊藤委員)

民間事業者が持って行くごみは、分母となるごみの排出量にも入らないので、民間事業者が増えたからリサイクル率が下がったということにはならないと思いますが、どうでしょうか。

(所生活環境課長補佐)

生活環境課の所です。よろしく申し上げます。

今現在、市内9か所のリサイクルステーションで民間事業者が参入しています。市が管理している4か所の資源ステーションに加えて、200か所以上で行政回収も行っていますが、民間事業者のリサイクルステーションは24時間いつでも捨てること出来るのに対して、市の資源ステーションは夕方までしかやっていませんので、夜捨てる方は、民間事業者のリサイクルステーションを利用してみえるようです。

(齊藤委員)

実情ではなく、この考え方について、そもそも民間事業者がごみを持って行ったら排出量には入らないから、民間事業者が増加したことは、リサイクル率が下がったという説明にならないのではないかなと思います。例えば、市のごみとしてペットボトルを捨てたのであれば、分母となるごみの排出量に入るから、資源化量にも入ると思いますが、民間事業者に持って行ったら、排出量自体に入らないので、民間事業者というところで説明が出来るのかなという素朴な疑問です。

(野田会長)

ごみの排出量に入っている量は、民間事業者が回収したごみを含めているかどうかということですが、含めていないという理解でよろしいですか。

(所生活環境課長補佐)

含めておりません。

(野田会長)

そうすると、単純に分母から差し引く訳なので、リサイクル率が下がるという要因としてどうなのかという意見だと思います。

一方で、リサイクル出来そうなものが民間事業者に持って行かれてしまうので、分母の扱い方によっては、この記述が正しいと言えるかもしれませんし、そうではないと言える可能性もあるのですが、そのあたりの認識は我々では分かりませんので、ご確認いただければと思います。

要するに、民間事業者の資源ステーションが増えたから、即リサイクル率が下がると言えるかどうかということですね。直ぐにご回答いただく必要はないと思いますが、持ち帰って一度ご検討ください。

他にどうでしょうか。

福田委員、お願いします。

(福田委員)

会議と直接関係ないかもしれませんが、昨日、ごみ減量化等推進委員の方とお話をする機会があったものですから、ご苦労様ですと言って話をしていましたら、市の多くのイベントは、飲食もすごく多いということで、そうすると、ごみも多くなることは分かるのですが、生活環境課とイベントを実施する課との連携を上手くとっていただいて、なるべくごみを少なくするような企画をしてくださいということをお話していただくと、もっとごみが少なくなるのではないかと試みてみました。

最近、市役所では、さくらまつりや食育まつりといったお祭りやイベントなど、横断的に色々なことをやっていたりしているのですが、そういう時には前もって日時などの情報を共有して、生活環境課の方たちからごみを少なくするように話をしてもらったり、庁内でも話し合ってもらったりすると良いなと言っていましたので、そういうことも考えていただくと、ごみの減量に少しは役に立つのかなと思いました。

(野田会長)

情報提供は重要だと思います。

ちなみに、イベントなどで参加される事業者のごみを回収したり処分したりすることは、事業者の責任になるはずなので、本来、行政がやる必要のないことではあるのですが、そのまま置いていたりということもあるのでしょうか。そうすると、連携しながら改善していくということになると思います。

他はどうでしょうか。よろしいですかね。

それでは、最後の施策 403 について、事務局から説明をお願いします。

(服部企画政策課主任)

資料 3 令和 2 年度 行政評価結果 (令和元年度対象) 外部評価対象分のうち「施策 403 上水道の安定供給・下水道の充実」について説明。

(野田会長)

そうしましたら、ご自由にご意見をいただきたいと思います。どうでしょうか。山田委員、お願いします。

(山田委員)

達成状況の分析の「下水道を利用することができる人口のうち、下水道へ接続した人口割合については、7割程度となっている。」というところについて、供用開始となった人口のうち、下水道へ接続している人口の割合は7割ということですが、世帯数は関係ないのですか。

(菅野上下水道課長)

供用を開始して下水道が使えるようになった地域の人口の中で、約7割の方が既に使っているということです。

(山田委員)

そうすると、普及率に7割を掛けた19.81%が、下水道に接続している割合ということですね。

(菅野上下水道課長)

単純計算でいくと、そういうことになります。

(山田委員)

そういうことであれば質問になってしまいますが、事務事業評価の「汚水管渠整備費」は、下水道を整備する事業の費用ということでしょうか。

(菅野上下水道課長)

これは、令和元年度に整備した分です。

(山田委員)

執行率は6割ですか。

(菅野上下水道課長)

はい。活動指標①の実績値11.0haが、令和元年度分の施工量です。

(山田委員)

予定よりも進まなかったように見えますが、どうですか。

(菅野上下水道課長)

現場の色々な事情があるのですけれども、翌年度に繰り越した分は、実績から除いています。

(山田委員)

平成30年度は、面積は分かりませんが、予算は9割執行していて、令和元年度は6割の執行ですよ。

(菅野上下水道課長)

そうですね。残りは、令和2年度に繰り越しています。

(山田委員)

全体的に少し遅れているということですか。

(菅野上下水道課長)

やはり、先ほど申し上げましたように、ガスや水道、地下のケーブルなどの関係で、調整を取りながら埋設していますので、どうしても遅れてしまいます。

(山田委員)

市民満足度調査の回答理由の中にも出てきますが、やはり下水道については、うちの前はどうなっているのか、いつ全部完成するのかということが分からないし、このシートでも分からないという感じです。そういったところは、何か指標として出ているのですか。

(菅野上下水道課長)

一応、ホームページでは、事業計画ということで、概ね5年ごとに5年先くらいの事業を地図に落として公開しています。ただ、公開はしていますけれども、先ほど申し上げましたように、段々遅れていくことがあります。

(山田委員)

進行の度合いの評価があった方が良くはないでしょうか。

(野田会長)

遅れていくということではありますが、当初の予定から見て、現状がどうなのかということとは言えると思いますね。

(山田委員)

年度ごとに、進まなかったという評価はしているけれども、これから完成させなければならぬ話なので、トータルとしてどうだったかというところを見ていただきたいと思います。

(菅野上下水道課長)

そうしますと、全体計画というものがありますので、そのうちのどれくらいの進捗かという指標を出すのかなと思います。

(山田委員)

進捗率という指標を出していただくと良いと思います。

(野田会長)

他にどうでしょうか。

齊藤委員、お願いします。

(齊藤委員)

先ほどの山田委員の質問とつながりますけれども、現在の接続率は7割ということですが、今後の方向性で「経営の効率化・健全化を推進する」と謳っているということは、健全化に向けては、この接続していない3割に説得を促すというようなプランが入っているという理解でよろしいでしょうか。

(菅野上下水道課長)

接続にあたっての利子補給や補助金といったものを、広報などでお知らせしながら、接続率の向上を図っていきたいと思っています。

(野田会長)

他にどうでしょうか。

ここは会計が違いますので、今後の方向性については、経営の健全化やマネジメントについても進めていくという話になっておりますが、先ほど言われたように、下水道整備の進捗状況をもう少し見せてもらった方が、市民には分かりやすいということですね。

時間が大分過ぎてしまいましたが、最後に、全体を通してということで、全般的な話でも結構ですし、個別のところについて、これは言っておきたいということがあれば、ご意見いただければと思います。いかがでしょうか。

山田委員、お願いします。

(山田委員)

市民協働の推進について、今後の方向性には「中期的なロードマップを作成し、市民協働推進体制の基本モデルの構築を図る」とありますが、これはどの部分に係っているのでしょうか。企画運営ミーティングは、協働テラスの運営に対してということですが、基本モデルの構築は、そういった方たちとは離れた場所で作られるということですか。

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

企画運営ミーティングを行う中で、ロードマップを作っていくことが理想です。どの事業という話ではなく、市民協働全体のやり方というに変かかもしれませんが、ロードマップを作成していきたいという意図で書かせていただいております。

(野田会長)

市民協働テラスや企画運営ミーティングと関係しているということですね。そういうことは、勢いよく行うことが出来る訳ではないので、基本的には市民協働テラスを中心にしながら進めるというイメージですかね。そこに、中田委員や福田委員が入ることが出来ると、非常に良いのかなという気がします。

他にどうでしょうか。

福田委員、お願いします。

(福田委員)

国際交流のところでお願いをしたいと思います。

インターナショナルパーティーは、市民全体に広く声を掛けてやっていると思いますが、その他の講座などは、市民全体に声を掛けるものと、やはり人数の関係なのか、会員だけに案内するものがあるのですよね。市民全体に声を掛ける時は、広報に掲載すると思いますが、国際交流協会の方たちも結構年配の方が多く、長いことやっていらっしゃるのので、1回パターンが出来てしまうと、前例がこうだからといって、毎年同じような流れでイベントをやられているので、もう少し若いメンバーで別のことをやったらどうかという案が出てこないのかなと考えております。

例えば、外国人の方たちから、私たちの国ではこうして子育てをしていますよ、こういうしつけの仕方をしていますよとか、結婚式の時はこういうものを贈るのですよ、お葬式の時はこうするのですよといった、外国の話を色々していただいたりすると、みんなも色々なことが分かって良いと思いますけれども、今やってみえる内容は、ちょっと固定化しているのではないかなということで、方向性を変えてもらうことも大事かなと思いました。

それから、先ほどのごみの話でも出てきましたが、外国人の方たちに対する災害時の安全対策とか、マニュアルのようなものは出来ているのか、外国人の方たちは、そういった情報をどのように調べるのかということ疑問に思ったので、直接関係ないかもしれませんが、そういうことも考えに入れて計画を立てていただけると、ありがたいかなと思いました。以上です。

(野田会長)

後半の話は、防災担当課の方に、こういう意見が出ましたよとお伝えいただければと思います。

前半については、国際交流協会を通じて国際交流の拡大を図っていくという戦略そのものが、上手くいかない可能性があるという重要な指摘になるのかなという気がします。要するに、特定の方の裁量で、ある程度決まってしまう部分があるので、戦略そのものを見直してもらうことも考えていただければという意見でした。

他にどうでしょうか。

川口委員、お願いします。

(川口委員)

今回、たまたまこの4施策が対象だったからかもしれませんが、先ほどの外国人の方の話にしても、市民協働、国際交流、ごみの仕分け方、防災など、それぞれの課の方々が横断的に取り組むと、もっとお互いにスムーズにいくことが結構あると思います。今は、1つの課の中での評価になっていますが、今後、例えば、協働事業をお互いに両方から評価するとか、2つの課の協働事業を一緒に評価するなど、より良い市の政策を作っていく上で、別の視点のやり方があっても良いのではないかなと思います。

(野田会長)

いくつかの部署で同じような事業をやっているということであれば、今のお話は参考になるのかなと思います。

一方で、国が縦割りで、上から来るものに従いながらやるべきことが結構ありますので、縦割りにならざるを得ない部分もあると思います。ただ、そうすると、市民から見て、何でもかこういことになるのかなという話になりますので、横割りにしていく部分も作ってもらいたいなと思います。

意見も大体出たかと思いますが、どうでしょうか。他に何かありますでしょうか。
高山委員、お願いします。

(高山委員)

まさに川口委員の言われるとおりで、市民協働は、まだしっかり動き出していないのですが、動き出したら、防災にしても国際交流にしても、全部のまとめ役のような位置付けになっていても良いくらいのところかなという気がします。そうなった時に、具体的な事務事業評価の活動指標をどうやって立てたら良いのかということが難しくなるだろうとは思いますが、ぜひ、関係ない話だからと切り捨てずに、市民協働テラスで色々受け入れて、仕分けするなり、種別するなりしていただければと思います。

(野田会長)

今おっしゃられたように、市民協働が入口になって進めることは重要だと思います。今の新型コロナウイルスでも、皆様や病院、大学、民間などと協力しながらでないと、行政だけでは対応出来ませんので、そういったことが全体的につながれば良いのかなと思います。そういう意味では、本日のご意見を踏まえて修正出来る部分もあると思いますので、ご検討いただき、また次回の委員会でお見せいただければと思います。

それでは、意見も出尽くしたかと思いますが、事務局に返したいと思います。どうもありがとうございます。

(後藤企画部次長兼企画政策課長)

皆様、長時間に渡りまして、どうもありがとうございました。

本日皆様からいただいたご意見等につきましては、内部で検討させていただきまして、第2回の委員会において、検討内容についてお示しし、再度ご意見をいただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいいたします。

また、第2回目の委員会につきましては、先ほどのスケジュールにもございましたとおり、10月頃の開催を予定しておりますので、開催日程が決まりましたら、改めてご連絡をさせていただきたいと思っております。

それでは、本日は長時間に渡り、ご審議を賜りまして、ありがとうございました。以上で終了とさせていただきます。

問い合わせ先	企画部 企画政策課 電話 052-400-2911 (内線3214)
--------	---------------------------------------

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するためここに署名する。

署名委員 山田 康博

署名委員 高山 孝治